

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	
1																	<様式10-1>	
2				令和6(2024)年度				児童館事業年間活動報告書								じゅらく児童館		
3				参加人数														
4			活動名	実施回数	乳幼児	小1～3年		小4～6年		中高生	大人	ボランティア			合計	内	容	成 果 と 課 題
5						自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ			中高生	大学生	大人				
6			(2)遊びの教室活動															
7			かみしばいやさん	24	8	9	1297		222		6			44	1586	地域ボランティアの方に来ていただき、紙芝居や絵本を読んでいただく。基本的には第2・4金曜日の午後4時30分～4時45分。第2は本館のみ、第4は分室学童にて実施。ボランティアさんが休みの際は、職員が読み実施。 令和6年度後半からは、分室に限りボランティアさんが来られない回については、高学年の活躍の場として協力を依頼し、引き受けてくれた高学年にお話を読んでもらうことにした。	毎回子どもたちはとても楽しみにしている。少し早めに来館してくださり、子どもたちと交流を図ってくださっているのもありがたい。20年以上続けてくださっていて定着もしているが、高齢になってこれた事に自身でも不安がある様子である。無理のない範囲で継続していきたい。 分室の高学年による読み聞かせも、聞く側にも読む側にも楽しみと喜びがあるようで、今後も継続していきたい。また、本館でも機会があれば提案していきたい。	
8			あそびweek	94	1	36	3931	34	355		1				4358	あそびの発見と、いろんなお友達と遊ぶことを目的として、毎月あそびのテーマを決め実施。経験のないあそびを体験するきっかけ、馴染みのあるあそびをさらに深める。遊びの内容は、めんこ・すくろく・トランプ・マンカラなど。めんこ・すくろくにおいては、子どもたちも作る所から参画してもらった。 あそびパスポートを持ち、参加したらシールをもらえる。たくさんたまと景品がもらえる。	3年目に入り、パスポートを持って参加する事が定着してきた。またシールがたまると喜びがある子や土気の上がる子が増えた。 あそびの道具を自分たちで作る事にチャレンジし、参加への意欲付けやweek以後も愛着を持って遊ぶ姿も見られた。 パスポートの扱いについて、職員の手間がどうしてもかかってしまうので、次年度は子どもたちにも手伝ってもらいながら継続実施していきたい。	
9			季節の工作	18	10	27	355	16	36		6				450	季節を感じながら、楽しんでもらえる工作を実施。7月に七夕、12月にクリスマス、3月にプラハンの工作を行う。各回とも、皆同じものが出来ないよう、個々に工夫しアレンジ出来るように準備する。	じどうかんだよりに見本写真を掲載することで分かりやすく、参加意欲に繋がった。また子どもたちが、館内掲示用にpopを作ってくれ、より参加促進に繋がった。 事前準備に職員の負担が大きいところもあったが、子どもたちが思い思いに制作をしていることはよかった。	
10			かまぼこおとしをしよう	3		5	67		25						97	マイかまぼこ板づくりとして、かまぼこ板に絵を描く。 かまぼこ落としの技やルールを確認し、上級生にデモンストレーションしてもらい、その後体験する。	マイかまぼこ板はそれぞれオリジナリティあふれる作品が出来た。 技の紹介は上級生が下級生に教え、デモンストレーションを行うことで分かりやすくてよかった。 場所を広く使う遊びのため、物理的に窮屈になることは否めない。	
11			こまにチャレンジ	1			54		10						64	こまの紐の巻き方、構え方、投げ方、紐の片づけ方、こまであそぶ時のルールを知る。 上級生にこまの技をデモンストレーションしてもらい、その後体験する。	始めにこまの扱い方の全般を教えることで、きちんと片づける所までが出来るようになった。また、上級生のデモンストレーションも歓声が上ががるほど盛り上がりが出ていて羨望のまなざしだった。	
12																		
13			(3)行事活動															
14			かまぼこおとし大会	1	3	13	6	4			10				36	自由来館児童も含め募集をかけ、あそびweekで取り組んだかまぼこおとしの大会をする。 リーグ戦(個人)を行い、勝ち点の高い人が最終トーナメント戦を行い優勝者を決める。	大人や学童OGの参加もあり、大変盛り上がりっていた。低学年・高学年以上のリーグに分けたことにより、実力の差が大きくなることなく楽しむことが出来た。	
15			北野天満宮短冊奉納	12	4	15	72	2	5		21				119	北野天満宮の七夕まつりに奉納するための短冊や飾りを作る。自由来館・学童・乳幼児クラブの保護者にも参加を促す。	子どもの成長を願うものや、家族の幸せを望むものなど、いろんな短冊が仕上がった。参加者の願いのこもった笹飾りが北野天満宮に飾られ、見に行かれた方からも感想を聞くことが出来た。	
16			絵手紙を書こう	2	3	7	6	6			11			1	34	日本絵手紙協会所属の講師に来ていただき、指導していただく。自分の手足、季節の野菜などを題材に絵を描き、敬老の日に送れる絵手紙を書く。	普段はなかなか使わない筆と墨を使っている絵手紙は、少し緊張した面持ちの子どもたちが多かった。 手などを観察することで発見があったり、手紙に書くことを懸命に考える姿もあり、良い経験になった。 また、親子での参加も多くあり、ゆったりとした親子の時間にもなった。	

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q		
17		基	防災訓練	12	11	2	556	4	74		6				4	657	毎月1回、地震・火事を想定して避難の訓練を行う。 定期的に学んだことの確認の意味も込めて、クイズ形式にしたり、広域避難所指定のある場所まで行く。 夏休み中は、分室学童も一緒に、本館で訓練を行う。聚楽保育所に協力を得て、合同で実施。 年に1回、中京消防署の方に来ていただき、避難の様子や課題の指導をしていた。 だ。	毎月行うことで、子どもたちの行動も早くなり、意識を持って行動できている部分も多くみられる。半面、訓練慣れしてお喋りしたり不真面目に参加する姿もある。繰り返し訓練で、万が一に備えている事を伝えつつ、真摯に向き合っているように伝えていきたい。 聚楽保育所と合同で行った際、連携不足の部分が浮き彫りになった。合同施設として、協議・連携を重ねていきたい。	
18			防犯訓練	2			73			8						81	中京警察署の方に来ていただき、こんな時はどうするか?など防犯のお話をしていた。 本館・分室で1回ずつ実施。	子どもたちにわかりやすくイラストを使ってのお話だったので、終始子どもたちも集中して聞くことが出来た。 質問にも真摯に向き合い答えていただけて、子どもたちも喜んでた。	
19			交通安全教室	2		1	64			13					4	82	中京警察署の方に来ていただき、クイズ形式でイラストを見せながら交通安全のお話をしていた。 本館・分室で1回ずつ実施。	イラストを見ながらのクイズ形式だったので、子どもたちにもわかりやすく良かった。また、子どもたちからの質問にも真摯に答えをくださって、子どもたちも満足そうだった。家に帰ってから、おうちの人もお話ししてね!とおうちのの人にこそ(大人)気を付けてほしい内容も話をしてくれていた。	
20			けん玉検定	4		3	265	1		68						337	あそびweekで取り組み腕を磨いた技の検定を行う。大皿から始まる初級、中級、上級、名人と階級を設定して行う。検定員は、一定の級をクリアした子どもたちにお願する。	難しい遊びのため、コツコツと継続して練習できない子どもにとっては参加が難しかった。頑張った子どもにとっては誇らしく、自信に繋がる経験となった。参加が難しかった子どもにとっては厳しいものになった。 一所懸命検定に向け、毎日時間を見つけて練習して合格した子どもの顔は非常にイキキしていてよかった。 初級・中級の重複級が多すぎるので、変更が必要か?また、けん玉協会が執り行っている級の設定を希望する声もあるので、次年度検討事項。	
21			けん玉検定表彰式	1		1	79	2		17						99	検定の結果、各個人に認定証を渡す。 段以上の子どもには、賞状と記念のプラバンを渡す。	頑張った子どもにとっては誇らしく、自信に繋がる経験となった。参加が難しかった子どもにとっては厳しいものになった。	
22			パスポートチェックday	3			148			12						160	あそびweekでたまったシールの数をチェックする。 8月・12月・3月の年3回実施。 学童は15個、自由来館は10個シールがたまっていたら景品がもらえる。	過去の事業でプレゼントした景品の残りを使用し、シールの溜まった子どもたちに健闘を称え、プレゼントをする。 現在残っている景品をプレゼントしているが、遊びを広げる事を目的としているのであれば、プレゼントは必要であるかの検討が必要か。	
23			ブルーパンプキンってなあに?	1	1	3	74			12						1	91	FaSoLabo京都さんに講師に来ていただき、食物アレルギーのお話を聞く。どんな子も楽しめるハロウィンになるために、知見を広げる。 絵本の読み語り、クイズ形式で、アレルギー物質を探すなど。	近年アレルギーのいる子どもが増える中、みんなが楽しく行事活動が出来るようにするためにはどうしたらいいか?みんなて知って、考える良い機会となった。
24			じゅらくこどもまつり子どもスタッフ会議	6		10	29	14		15							68	子どもスタッフ会議を重ね、子どもたちが主体的にじゅらくこどもまつりに参画し、運営に携わる。 携わる部分や内容については、大枠は職員が決めるが、詳細については子どもたちと相談して決める。 小学2年生以上を対象とし、15名程じどうかんだよりにて広報募集する。 まつり当日のコーナーの決定と準備、オープニング・エンディングの担当を決め進行の準備をする。	2年生には少し難しい部分もあったが、学年の大きい子どもたちがサポートしたり、カバーしあって助け合いながら実行できた。 短い時間の会議のため、職員がリードする形で行うことになった部分もあったので、可能な限り子どもたちが検討する時間を持ちたい。 分室児童の会議参加は物理的に難しい上、職員の引率配置も難しい。公平にいろんな子どもたちに参加してもらうための手立てが必要。
25			おたのしみ会実行委員会	4		5	7										12	実行委員を重ね、子どもたちが主体的におたのしみ会に参画し、運営に携わる。 携わる部分や内容については、大枠は職員が決めるが、詳細については子どもたちと相談して決める。 小学3年生以上を対象とし、10名程じどうかんだよりにて広報募集する。 おたのしみ会当日のゲームの決定と準備。	短い時間の中で、申し込んだ実行委員も少ない中で、準備を頑張ってやってくれた。合間に時間のなさから遊びに流された時もあったが、最終は助け合って当日を迎えられた。
26			おたのしみ会	1	1	20	9	9		1			3			2	45	実行委員とじゅらくLabの子どもたちが中心となり、ゲームやあそびを楽しむ。 朱二学区社協さんもプレゼントを用意して、子どもたちの活動や様子を見に来てくださる。	子どもたち主体・子ども主導での素晴らしい会になった。朱二学区社協さんも来てくださりプレゼンターも務めてくださり、子どもたちと交流してくださったのがよかった。毎年、参加者は定員を超えるほどの盛況ぶりではないが、参加した子どもたちにとっては楽しい時間となったと思う。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
27	も	育 成 機 能	大そうじ	1			46		5						51	児童館の室内外、小雀広場の掃除を、来館者・学童児童と共に行う。 グループごとにくじを引き分担して行う。	子どもたちはみんなで協力して掃除をしてくれた。いつもは手の届かない部分や細かな部分の雑巾がけも、みんなで協力して行うことが出来た。広報不足か、子どもたちの興味関心が向かない内容だからか、毎年自由来館者の参加がないことが残念。
28	成		こま検定	5		6	257		34						297	あそびweekで取り組み腕を磨いた技の検定を行う。紐巻きから始まる級、名人技、師範技と階級を設定して行う。検定員は、一定の級をクリアした子どもたちにお願する。	いろんな子どもが参加できるように曜日を確定せずに行ってきたが、今年度はほかの行事の都合と合わず同じ曜日の設定が重なった。 難しい遊びのため、どうしても気の向かない子どもたちに負担が無いよう、検定は5回のうち1回は参加しようという呼びかけにした。
29	機		こま検定表彰式	1		1	59		8						68	検定を受けた子どもたちの努力を称える。級合格者には認定証、名人合格者には賞状と記念プラバンをプレゼントする。	頑張った子どもにとっては誇らしく、自信に繋がる経験となった。参加が難しかった子どもにとっては厳しいものになった。
30	能		たこ作りをしよう	5		1	16		4						21	たこあげ大会に向け、たこに絵を描く。	自由来館者の参加がなく、学童のみになった。
31																	
32			(4) クラブ活動														
33			あそびクラブ	22		8	176								184	小学生1・2年生を対象にした登録制クラブ。2クラス制で月1回第1・3月曜に実施。 毎月テーマ(道具など)を決め、主体的に関わりを持てるよう、どうやって遊ぶかをみんなで考えて決める。協力することの楽しさや大切さも考慮する。	回を重ねるごとに、遊具を見て一瞬懸命に「こうやってあそぼう!」と提案する子どもたちが増えた。またそれに伴い、1年生をリードする2年生の姿も見られた。個人差の大きい年齢であるため、逆に館外に出たという解放感でテンションだけが上がってしまい、場に沿った動きが出来ず、トラブルに繋がることもあった。
34			なかよしクラブ	11		91	28								119	小学校低学年を対象にした登録制クラブ。月1回第3土曜に実施。 年度の初めに、自分たちでしたいことを出し合い決定する。工作・遊び・館外活動など。	子どもたちのやってみたい!をみんなで出し合い、年間計画を立てたことにより、大半の子どもが意欲的に参加している姿が見られた。 低学年のため、時間の管理や持ち物の管理に不足が見られることがあった。丁寧に保護者向けの案内や、子どもたちに向けた指導が必要と感じた。
35			おりがみクラブ	22		63	5	24							92	小学生以上を対象にした登録制クラブ。2クラス制で月1回第2土曜に実施。 季節を感じるものや、立体的なものなどを、折図を見ながら折る。	数年経験を積んだ子どもたちは、折図を読み解き参加できていた。中には一から教えてもらう事しか考えていない子どももいたが、今年度は登録人数が少なく丁寧に対応できた。
36			きりえクラブ	22		86	7	48			11				152	小学生以上を対象にした登録制クラブ。2クラス制で月1回第4土曜に実施。 季節を感じるものや、自分のレベルにあった図案を選び、カッターナイフを使い作品を作る。	数年経験を積んだ子どもたちは、丁寧に作品を仕上げていた。年度途中に入会した子どもに、初回から丁寧に教えることが出来ず、数か月しんどい思いをさせてしまった。
37			じゅらくLab	11				67			6				73	小学4年生以上を対象にした登録制クラブ。少し難易度の高いゲームを楽しむ。また地域を歩きながらゲームやクイズを行う、館外での活動も行う。	大人の方の参加もあり、また高学年集団のため、うまく関係性を築くことが出来た。
38																	
39			(5) 地域間交流促進活動														
40			北・上・中ブロック児童館・学童保育所まつり2024	1		4					5				9	第1ブロックの児童館と学童保育所が集い、発表やあそび・工作コーナーを楽しむ。	学校参観日と重なったことで、引率で連れていくこともなく、子どもたちの発表もなく、場所も児童館地域から遠かったため、地域の参加者はなかった。
41			ドッジボールフェスティバル2024	1		19		6	1						26	壬生体育館にて、壬生児童館と円町児童館と一緒にドッジボールを楽しむ、交流する。	保護者の応援が会場の関係でなかったが、子どもたちはたくさん参加してくれた。他の児童館の子どもたちとの交流は、出身保育園の子どもたちとの再会もあり、喜びハイタッチなどする姿も見られ、良い機会となった。 今年度も申し込み人数が多く、2年生以上を対象とした。
42			親子たこあげ大会	1		4	11	5	1		11				32	親子参加を募り、たこの制作からたこあげまでを朱六小学校グラウンドで楽しむ。	参加の子どもたちが少なく、体育館をお借りして制作をしようと準備していたが、分室で制作することに変更をした。 残念なことには無風だったので、子どもたちは走ってたこをあげることになったが、子どもたちにとっては楽しい時間となった。 年々参加者が少なくなっているので、事業の在り方の再検討が必要な時期になったと感じた。
43			小学生クラブ作品展	期間中随時												2月25日～3月7日の期間で、遊戯室と廊下に、おりがみクラブときりえクラブの作品を展示する。	幼児保護者を含め、たくさんの方が見てくださった。子どもたちの作品に歓喜の声を上げてくださる方もおられた。また、観覧を機に、クラブの紹介などもさせてもらえる時間もあり、児童館の取り組みを深く知っていただけた。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
44																	
45			(6)障害のある児童の居場所づくりと活動への参加促進														
			障害のある児童の居場所づくり	随時												随時来館者には声をかけたり、余暇を過ごす場所のひとつとして活用していただけることを、周知する。	学童OBについては、事前に遊びに来られる場所である旨を伝えていたため、昨年卒業した中学生が遊びに来てくれる事があった。特段、何かして遊ぶことを目的とした来館でなくとも、顔を見せてくれ、近況を話してくれる良い時間となった。
46																	
47																	
48			(7)思春期児童の活動支援														
			中学生世代と赤ちゃんとの交流活動	5						150	53			7	210	中学生世代を対象に、乳幼児親子とのかかわりを通して、自分を振り返ったり、未来を思い描いたりできる機会を得るため、地域保育園やサロンに出かけ、交流を回る。 京都市立西ノ京中学校の2年生を対象にし、赤ちゃん講座を行う。講座には、民生児童委員や、学区社協を含んだじゅらく児童館中学生世代と赤ちゃんとの交流活動推進委員会の方に協力をいただく。	赤ちゃん講座以外の活動については、参加者がいなかった。機会を設けるにとどまっているが、次年度も継続して啓発・発信していきたい。 園庭開放に行った際には、中学生の参加はなかったものの、参加した乳幼児親子にとっては、長期休業中のおそび場・交流の場として行けたことはよかったとの反響があった。 赤ちゃん講座に参加した乳幼児保護者からは、貴重な機会と有意義だったとの感想もいただき、良い機会となった。
49			中学生タイム	随時												中学生を対象に、夕方5時から閉館までの時間に遊び場の提供をする。	学童OBが即活の後や、試験期間中の息抜きに遊びに来てくれることが今年度は増えた。同じ子どもの利用が中心だが、今後も気持ちよく来てもらえるよう、場の設定はしていきたい。
50			中学生タイム(行事)	3												不定期ではあるが、随時受け入れをしている中学生タイムの中で、行事的にあそびや工作などの体験の場を設定する。	何かしよう!というものを望んではいない様子が会話の中で知ることが出来た。しかし、思春期児童に対し、児童館でこんなことが出来るんだ!と知ってもらうためにも、何かを提案して、きっかけは与えていけるよう今後も準備していきたい。
51																	
52																	
53			合 計	302	50	443	7691	237	926	150	150	0	0	63	9710		
54																	
55			(9)地域を知る活動														
			朱二学区初夏の敬老の集い	1		6	5		1		32			7	51	朱二学区の敬老の集いに招待をいただき、昔遊びを中心に遊びの交流を行う。	2週間前のお誘いだったが、急遽学童を中心に募り参加した。子どもたちの普段のあそびを発表とし、その後交流したが、子どもたちより上手にお手玉をする年配の方を見て、子どもたちも喜んでた。 異年齢交流、地域を知る活動として、とても良い機会を与えていただけたので、今後も可能な限り交流していきたい。
56			エコ活動	随時												学童クラブの毎日のおやつでは、ごみを小さくたんて捨てたり、分別するように指導してきた。 紙コップ・トイレトペーパーの芯、新聞紙など、子どもたちと相談して工作・あそびを考えたりするよい機会にもなっている。	定期的子どもたちにゴミを小さくする指導をし、定着してきた。 紙コップ・トイレトペーパーの芯、新聞紙など、子どもたちと相談して工作・あそびを考えたりするよい機会にもなっている。
57			子ども用品・子育て用品「譲ります!もらいます!」	随時												子どものおもちゃや子育て用品が不要になった家庭が、必要な家庭にリサイクルを呼びかける。	少ないながらも参加者があった。 制度やシステムをわかりやすく明示するなど、今後も工夫が必要。
58			夏のオアシス!クールキッズステーション	時事												各家庭でエアコン使用による電力消費をおさえる一つの提案として児童館の利用を呼び掛けている。	学童クラブの子どもたちがたくさんいるなかではあるが、ぼつぼつと来館してくれる方がいた。
59			(10)移動児童館活動														
60																	
61																	
62			合 計	1	0	6	5	0	1	0	32	0	0	7	51		
63																	
64			子ども育成機能 合 計	303	50	449	7696	237	927	150	182	0	0	70	9761		
65																	
66																	
67	※注 基本活動は、指針に基づき(2)遊びの教室活動(3)行事活動(4)クラブ活動(5)地域間交流促進活動(6)障害のある児童の居場所づくりと活動への参加促進(7)思春期児童の活動支援に分類して記入すること。																
68	推進活動は、指針に基づき(9)地域を知る活動(10)移動児童館活動に分類して記入すること。																
69	指定活動は、指定児童館のみ別途報告すること。																